

創立89年 地域と時代の要請に応じる人材を育成する

鹿児島国際大学

鹿児島国際大学短期大学部

鹿児島高等学校

鹿児島修学館高等学校

鹿児島修学館中学校

鹿児島幼稚園

平成24年度 事業計画

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

学校法人 津曲学園

鹿児島国際大学・鹿児島国際大学短期大学部

1. 教育力・指導の向上を目指す学部の事業計画

1. 経済学部

- (1) 志願者増に向けた学部・学科の魅力作り
- (2) 諸外国・地域・大学からの留学生の受け入れと留学生の進路開発
- (3) 学科ごとの就職率の目標設定と卒業生・同窓会のネットワーク作り
- (4) SA（上級生）が学習を励ます演習のシステム
- (5) キャリアカウンセラーを活用する退学者対策

2. 福祉社会学部

- (1) 学部教育、日々の学習などを点検する。
- (2) 現代社会学科の学生募集停止の広報と現代社会学科の学生に対する最大限の教育支援
- (3) 学部入学定員の充足に向けた努力
- (4) 各免許・資格を取得した卒業生との関わりを支援することによる教育の充実
- (5) より高度な教育体制を念頭においたコース制の導入および大学院構想（児童学科）

3. 国際文化学部

- (1) 定員確保のための PR
 - ① 夏期受験音楽講習会・音楽学科特別公開講座・「こくさい AMU キャンパス@紀伊國屋書店」など学部のアピール
 - ② 高大連携の強化（鹿児島高等学校ほか）
 - ③ 学内外での演奏会・ボランティア活動・地域社会との連携強化
 - ④ 音楽学科非常勤講師・音楽指導者・卒業生との連携
- (2) 国際文化学科の適正なコース設計のための情報収集と検討
- (3) 学生の進路・就職支援
 - ① 就職率上昇の目標値・学生の就活状況の把握
 - ② 学習支援の強化（教員採用試験合格者の増加）
 - ③ 海外音楽大学・音楽院留学の情報収集と学生への提供
- (4) 国内・海外インターンシップの支援
- (5) 教育力の向上と研究体制の整備
 - ① 「FD 意見交換会」「音楽学科実技指導法研修会」による授業評価・授業改善

- ②「学内研究会」「教員定期演奏会」『国際文化学部論集』による教育・研究力向上
- (6) 留学生への支援
 - ①日本語集中授業のより円滑な運営
 - ②相談体制の構築

4. 短期大学部

- (1) 資格課程の3本柱（観光ビジネス実務士・司書・音楽療法士2種）のエッセンスを大学教育のカリキュラムに移行する。
- (2) 教育実践の基本を a.少人数教育 b.基礎学力（＝生きる力）のアップ（充実したキャンパスライフ）におく。
- (3) 就業力支援
 - ①プレゼンテーション能力（人前で表現する能力）の向上
 - ②教員自身の「就職意識」の転換（週単位での学生の就職・進路支援）
 - ③短期大学部の就職相談室の活用（就職率を90%まで引き上げる）
- (4) 教員組織の充実
 - 「短期大学部公開研究会」、「短大教育を考える会」その他の意見交換会を通じて、FD活動を続ける。
- (5) 点検と評価の継続
 - 平成22年度の「第三者評価」による指摘に従い、自己点検をさらに続ける。
 - ※短期大学部は、平成25年度より学生募集停止

2. より充実した研究・教育を目指す大学院へ

1. 経済学研究科

- (1)「台湾首府大学（台南）」提案の現地入試を実現し、入学志願者の増加を図る。
- (2)「研究の仕方」「研究計画書」「研究報告書」の内容を充実し、教育水準の向上を目指す。
- (3) 三大学院共同シンポジウム、三研究科合同シンポジウムなど学内外機関と連携し研究を活発化する。
- (4) 外部資金の導入に努力する。
- (5) 就職支援

2. 福祉社会学研究科

- (1) 学位論文中間報告会の活性化・学会発表の推奨による研究活動の推進
- (2) 学内外機関との連携および外部資金の積極的導入

- (3) 地域の特性を十分勘案した教員・院生による新規性の高い研究の展開
- (4) 台湾現地入試の導入と修了者の就職支援
- (5) 他研究科・大学院との連携
- (6) 三研究科合同シンポジウムの開催

3. 国際文化研究科

- (1) 社会人の志願者獲得（長期履修制度の活用）
- (2) 博士論文提出および審査のフローチャートの見直し
- (3) 院生に対する就職情報の一元的・包括的提供
- (4) 三研究科現地入試の実施（台湾首府大学）
- (5) 三研究科合同シンポジウムの実現
- (6) ホームページの充実と就職した修了生の情報提供
- (7) 留学生の修学支援

3. 学生募集

1. 本学主催入試説明懇談会
6月下旬から7月初旬にかけて県内6会場で実施予定（鹿児島・薩摩川内・鹿屋・霧島・種子島・奄美大島）
2. 高等学校訪問
大きな柱として4月中旬～と10月中旬～に県内全域（県境を含む）を訪問。また入学試験案内・入学試験後の御礼訪問・キャンパス見学会案内でも訪問し、高等学校との信頼関係をつくる。
3. 進学説明会
会場型説明会（年間約60会場）に向けてトピックスなどを作成し魅力発信に努める。
4. キャンパス見学会の実施（7月と10月）
模擬授業・レッスン・体験実習・個別相談・在学生とのフリートーク・学科イベントなどで大学の魅力を伝える。
5. 大学来訪者（高校生・PTAなど）への魅力発信と施設案内
6. 本学卒業の高等学校教員との教育懇談会（鹿児島、鹿屋、奄美で実施）
7. 出張講義（出張講義のテーマ一覧はHP掲載）鹿児島県内を中心に年間70回
8. HPでの魅力発信
携帯サイトを含め日々更新（動画配信・ブログなど）
9. 受験情報雑誌等掲載、新聞広告、WEB媒体

4. 施設・設備関係

1. 学生用貸出パソコンの一部新規入替え
2. 情報処理教室のパソコン新規入替え
3. 教職員グループウェア（MICS）の新規入替え
4. 入試システムの機能追加と修正
5. 学内ネットワークの充実
6. 出欠記録システムのIC化
7. パソコン仮想デスクトップの導入

5. 教職員資質向上施策

学生たちが卒業後、社会的自立・職業的自立を達成できるように励まし、教育するには、教員と職員が計画・立案・その協力体制を強化するなど、互いに「協同する」ことがきわめて大切である。本学は次の部局でそれが達成できるように、仕事の仕組みを研究し、実践する。

1. 就職キャリアセンター
 - (1) 学生のキャリア形成支援と進路支援
 - (2) 文科省「就業力育成支援事業」プロジェクトの成果を組み込んだ学生支援システムを考える。
2. 総合企画室

大学の教育・研究が計画通りに進行しているかを点検し、その改善を全学に促す役割を担う組織である。

 - (1) 大学基準協会の「第三者評価」を本年度受審するため、「自己点検」の重要な全学的作業を取りまとめる。
 - (2) 大学改革・改組の具体的な検討を行う委員会として、自己点検・評価運営委員会、大学改革検討委員会、学部長・研究科長等連絡会議があり、それらの活動を組織し、事務管理をする。
3. 教育開発センター
 - (1) 教員の教育力向上と「学生がさらに満足できる授業」の実現を目指し、「授業公開」、「教員・職員による授業参観」、「学生による授業評価」を柱とする施策や、授業全般に関する教員への相談・支援を行うなど日常的に教育改善をサポートする。
 - (2) 学部・学科レベルにおけるディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを確認し、その整合性と体系性を検証する。

以上 鹿児島国際大学・鹿児島国際大学短期大学部

鹿児島高等学校

1. 豊かな心と生きる力を培う教育を目指します

平成23年度の「真」を受け、平成24年度は次の7項目を推進し「審」を実現する年度とする。

1. 支援を要する生徒の指導について委員会を設け、今後の対応を検討する。
2. 特進コースの設置・普通科1年自然クラス制について、目標の達成を検証する。
3. 評価制度の活用によって、学校の教育力が向上したか検証する。
4. 推薦入試制度・奨学金制度の効果について総括する。
5. 新指導要領に基づく教育課程を編成する。
6. 入試実施要領・危機管理のマニュアルを作成する。
7. 結果に結び付く進学指導体制・広報活動を検討・確立する。

2. 教育指導

(1) 教務部

- ①従来の会議を検証し、より有効な会議のあり方を考える。
- ②評価制度・研修制度を見直し、自己研鑽の有効な方法を考える。
- ③学校行事を見直し、よりゆとりのある有意義な学校生活を目指す。
- ④入試作業をより正確・円滑にするために、従来の作業を検証する。
- ⑤広報部と連携し、効果的な生徒募集を考える。
- ⑥校外での活動の充実を図り、地域社会との親睦を深める。

(2) 生徒指導部

- ①規範意識の高揚（校則・社会ルールの遵守）
- ②教師の共通理解・共通実践
- ③服装の端正化を図る。
- ④今日的課題への対応（ブログなどのネット関係・盗難などの刑法犯等）

(3) 進学指導部

- ①教科・学年・学科の連携により、進学体制を強化する。
- ②生徒の進路実現のため、学力の向上を目指す。
- ③二者面談・模擬試験などの分析等を活用して、生徒一人一人の学力を把握し、的確な進路指導に努める。

- ④進学便りの発行や進学情報誌の利用により、また、進学講話・講演・進学ガイダンスを通じて、生徒・保護者の意識を高める。

(4) 就職指導部

- ①3年間を見据えた進路指導体制を確立する。
- ②基本的な生活習慣を確立し、学力を強化し、難関企業への就職を目指す。
- ③教科・学年と連携して、キャリア教育を推進する。
- ④生徒の興味・適正・能力に応じた職業指導に努める。
- ⑤雇用情勢に対応した指導を行い、求人企業の拡大に努め、就職率100%を目指す。

(5) 保健安全部

- ①基本的な生活習慣の確立と豊かな男女交際のあり方を推進する。
- ②安全指導・安全管理を徹底する。
- ③意欲的に体力作りに励む生徒を育成する。
- ④環境衛生・美化に対する意識と態度を育成する。
- ⑤火災・地震・水害に対する避難経路を総合的に見直す。

3. 教科外指導(部活動)

- (1) 文武両道を目指す。
- (2) 体育系、文科系ともども実績の伸長を図る。
- (3) 部活動を通して、克己心・謙虚な心・礼節を涵養する。

4. 生徒の確保

- (1) 生徒募集対策委員会で中長期的な募集活動を検討・策定する。
- (2) 中学校訪問の運用について抜本的に見直し、情報の伝達と収集を徹底する。
- (3) 学習塾訪問を組織化すると同時に、連絡会の内容を充実させ、連携を強める。
- (4) 体験入学の内容について見直し、参加者の増加を図り、受験につなげる。
- (5) 校内の情報を収集する体系を確立し、学校新聞を作成し、配付する。

5. 事務部

- (1) 経費節減を徹底する。
- (2) 業務の機械化を図り、効率化を推進する。

以上 鹿児島高等学校

鹿児島修学館中学・高等学校

1. 社会でいきいきと活躍する若者の育成を目指します

建学の精神に則り、全人教育を基調として、将来、社会（国家社会・国際社会）の発展と人類の進歩に寄与し得る有為な人材を養成する。

1. 生徒の個性・能力を伸長し、自主性・独立性・創造性を培う。
2. 自由と規律・寛容と協調の心を育てる。
3. 進路実現のための高い学力の養成に努める。
4. 健全で豊かな精神を養い、人生の真理と幸福を追求できる人間を育成する。

2. 学校活性化に向けた重点施策

1. < 教務部 > 生徒の人間形成・学力アップのためのよりよい教育環境を整える

(1) 年間指導計画・授業進度表の作成と実践

生徒・保護者への提示、および実態に応じた計画的な分かる授業の展開。

(2) 授業の公開

保護者会実施日や授業公開週間の設定と、保護者や地域の方々に対する授業公開の推進。

(3) 4部との連携強化

総合企画部・生徒指導部・進路企画部・事務部の重点施策に対する協力と連携の強化。

(4) 社会人基礎力の養成

「7つの習慣J」、[よのなか]科を中心とするキャリア教育の推進。

(5) 教育課程の編成と見直し

英語教育の特化を考慮した高等学校の新教育課程の編成。

(6) 検討課題研究

学校行事・教室配置・成績評価・試験・諸様式等の見直しと改善。

2. < 進路企画部 > 生徒の能力を拓く指導力の改善と向上

(1) 生徒個々の目標達成のための学力の向上

① 効率的な補習等の実施

② 個々の生徒の目標・学力について教師間の共通理解

(2) 明確な進路意識の確立

① 上級学校または職業への興味・関心の喚起

- (3) 進路情報の提供
 - ①保護者会・進路ガイダンスの開催
 - ②進路便りの発行
- (4) 授業の活性化
 - ①研究授業、授業評価の実施
 - ②指導力向上のための研修・視察の実施
- (5) 社会人基礎力の養成

3. < 生徒指導部 > 時を守り、場を清め、礼を正す指導を行う

- (1) 基本的な生活習慣の確立と社会人基礎力の養成

時間厳守，あいさつ，整理整頓，服装・頭髪，マナーやルールの啓発。
- (2) 生徒会の活性化

学校行事への生徒参加，部活動の活性化，ボランティア活動の推進。
- (3) 生徒自身の健康への意識高揚

健康診断の全員受診，学校保健委員会や保健講話の開催。
- (4) 教育相談の充実

スクールカウンセラーとの連携，教育相談週間の設定，いじめ等の調査。
- (5) ホスピタリティーの向上

あいさつ運動の推進，学校周辺や通学路の美化。

4. < 総合企画部 > 視点を変え，攻めの広報戦略を展開する

- (1) 担当者の見直しと積極的訪問活動，説明会参加への工夫・改善
 - ①生徒募集活動重点地区の設定。
 - ②より精力的な塾・学校訪問活動。
 - ③公立中説明会への新規参入に向けた積極的な活動および工夫。
- (2) ホスピタリティー溢れるイベントの開催
 - ①オープンスクール（7月）
 - ②塾対象説明会（10月）
 - ③学校説明会（10・11・12月）
- (3) WEBのより積極的な活用
 - ①PPC広告の効果を高めるための改善および工夫。
 - ②ホームページの更新頻度を上げるための更新システムのルーティン化。
 - ③ホームページ上の動画コンテンツ数の加増。
- (4) 社会人基礎力養成プログラムの推進及び広報

①他の4部との連携による社会人基礎力養成の推進。

②外部への広報および外部連携の窓口としての役割。

5. < 事務部 > 問題意識を持って業務に取り組みあらゆる場面で改善を図る

(1) 業務改善

事務の効率化・厳正化の推進

(2) 環境改善

自然を大切にした学校環境づくり。緑化推進。ホスピタリティーの実践

以上 鹿児島修学館中学・高等学校

鹿児島幼稚園

1. 創立83年・再興43年の歩みが語る、一人一人を生かす確かな保育を目指します

恵まれた自然環境を生かして、元気で、明るく、のびのびと活動する心豊かな幼児を育てる。(キャッチフレーズ「緑いっぱい 笑顔あふれる 鹿児島幼稚園」)

《基本方針》

- 一人一人を大切にされた教育に徹する。
- 子どもの主体的な活動を促すとともに、創造性を豊かにする。
- 基本的な生活習慣や態度を育て、豊かな心情を育む。
- 家庭・地域との連携を深め、子どもの自立に向けた基盤を育成する。

2. 重点施策

1. 教育内容の充実

(1) 子ども一人一人の良さを伸ばす保育の充実

- ①保育内容の見直しと環境づくり
- ②園内研修の充実による教員の指導力の育成
- ③特別支援教育及び「幼児教育相談」の充実
- ④教育実践や園児の活動(作品)の積極的応募
(ソニー「科学する心の育成」、絵画コンクール等への応募)

(2) 心の教育の充実～“明るい笑顔・元気なあいさつの幼稚園に”

- ①基本的な生活習慣・態度の育成
- ②異年齢での交流活動の促進
- ③絵本に親しむ活動の充実
- ④花や野菜の栽培や動物の世話など自然とのふれあいの充実

(3) 保健・安全管理の徹底

- ①日々の安全指導の徹底 (事故防止・不審者対策)
- ②園バスの安全運行
- ③健康教育の徹底 (うがい・手洗いの励行)
- ④給食指導の充実による「食育」の推進

(4) 家庭教育の充実及び地域の子育て支援センターの役割強化

- ①未就園児親子対象の「ちびっこクラブ」の充実
 - ②「子育て講座」（名称を変更予定）の充実と参加者の拡大
 - ③「親子で遊ぼう」（在園児対象）の活動内容の充実
 - ④保護者・地域の声を生かした「開かれた幼稚園」づくり
- (5) 鹿児島国際大学の教育実習園としての役割・機能の強化
- ①大学（児童学科）との連携・協同で幼児教育の充実・推進
 - ②実習内容の見直し・充実
 - ③学生の保育体験やボランティアの受け入れ
- (6) 幼・小・中学校や地域との連携
- ①近隣幼・保・小・中との連携
 - ②地域（高齢者）や施設（特老）との交流

2. 事務の効率化と環境整備

- (1) コンピュータの活用による円滑な事務の推進
- ①パソコン活用による園事務の効率化、適正な情報管理
 - ②ホームページの刷新と活用
 - ③情報の共有化と迅速な対応
- (2) 環境の整備・充実
- ①歩行者用通用門の設置
 - ②雨よけ対策（庇等の設置）
 - ③教材倉庫の設置
 - ④グラウンドへの自作遊具の設置
 - ⑤施設の安全点検の徹底

以上 鹿児島幼稚園